

安部 潤一

Abe Junichi

国税専門官 2017年採用

調査査察部 調査部門

大規模法人を調査する
重みと責任

Question

1 現在の仕事内容について教えてください。

私は国税局の調査部門に所属しており、資本金1億円以上の、九州を代表する大規模法人に対する税務調査を行っています。

大規模法人の取引は、膨大で複雑かつ専門的なものが多く、その取引の解明のためには、国際課税や企業再編税制など高度な税法の知識を必要とするため、自身の力不足を実感することもあります。研修で習得した知識や、税法、国際課税などに精通した上司や先輩のアドバイスを受けながら調査に臨んでいます。

また、大規模法人は地域経済に大きな影響力を持っているため、調査を通じて、地域全体の税務コンプライアンスの向上を目指しています。



国家公務員としての「自分の発言」の重みに責任とやりがいを感じます



Question

2 仕事のやりがいや達成感を感じたことを教えてください。

調査等を通じて、自分の発言や指導により、著名な法人の今後の経理・経営方針に大きな影響を与えることがあります。国家公務員としての「自分の発言」の重みに責任とやりがいを感じます。

時に、調査先の担当者や税理士等との間で事実認定や法律の解釈を巡り、意見が異なることがあります。そのような時には、税法に精通した上司や先輩からのアドバイスを参考に、自分で税法の解釈や判例等を調べながら調査先と議論を進めていきます。こうして無事に調査を終了できた時には達成感を感じます。

Question

3 税務の職場の魅力について教えてください。

税務の職場は、仕事と子育てとの両立もしやすく、育児休業や短時間勤務などの様々な両立支援制度を活用しやすい職場です。昨年、私も妻が出産した際、育児休業を取得し生まれたばかりの子供の世話をしました。初めての経験で失敗もありましたが、妻と協力して一緒に乗り越えられたことは自信になりました。近年では私のように子供が生まれた男性職員のほとんどが育児休業を取得しています。

また、税務の職場はワークライフバランスを保ちやすい職場です。私も年末年始、ゴールデンウィーク、お盆などの期間に1~2週間程度の連続休暇を取得し、家族で旅行や帰省をするなど、リフレッシュ期間に充てています。



Message

簿記や会計学の知識がなく、仕事ができるか不安という方もいらっしゃると思いますが、国税の職場では研修等を通じてそれらの知識を身に付けることができるので心配する必要はありません。私も職場に入るまでこれらの知識は全くありませんでした。

採用されて数年間は税務署での勤務となりますが、そこで知識を習得し税務調査の経験を積んで、ぜひ国税局調査部門での勤務を希望してほしいです。大変に感じることもありますが、国税局では、税務署では経験できないような調査事案に携わったり、国際課税などの専門的な研修を受講する機会にも恵まれており、これらの経験は私にとっても自信に繋がり、今後の職場人生に大いに役立てると思っています。